

事業活動報告

事業所名 第三かめおか作業所

1、2021年度 事業所方針
<p>「next outlook ～次のカタチを想像する」</p> <p>昨年に引き続きビジョン 2025 と連動し、第三が担う役割をさらに追求する、広げる一年をめざします。具体的には次の項目に取り組みます。①次の形を視野に入れたグループ編成や作業の見直し、事業全体の見直し ②第三らしさ（強み）を活かした事業の拡大と工賃規定の改定 ③主体的に生きる・働くことの追求（第三アビリンピック大会・今月のミッションの取り組みの充実） ④第三らしさを備えた就労移行支援事業の見直し、⑤一人ひとりの力量を深め全体をみて行動できる職員集団づくり</p>
2、利用者・職員状況
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者 42名（男性 26、女性 16）※7、8月に2名退所→ その後、11月から1名は通所再開。 ・職員 13名 正規6名 非正規5名（所長1名 主任1名 支援員10名 亀岡市事業1名） ・作業 和洋菓子グループ（内勤）… シフォンケーキ、もち焼きあられ等の製造・販売 地域就労グループ（外勤）… スーパーやマンション、公共施設の清掃、草刈り、ワックスがけ
3、実践内容と成果
<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度は日々コロナウイルス感染にふり回される日々でした。1～3月にはメンバーやご家族が感染、濃厚接触者となったりして事業所閉所を余儀なくされました。見通しの持てない閉所はメンバーの不安につながり、普段の過ごし方に戻るまで時間がかかる、閉所をきっかけに休みが続くメンバーもいます。仕事面では「with コロナ」の動きからか、内勤では販売の機会も出てきました。まだまだ少ない状況ですが、2つのグループの就労支援会計は昨年より増収で終えることができました。様々なつながり、取引先が増えているのだと思います。 ・今年度は報酬に対する加算の見直しをおこない赤字幅を圧縮できるよう取り組みましたが、事業所運営は厳しい一年でした。次年度はさらに圧縮、黒字化へ転換していくために、①新しいメンバーの受け入れ②報酬単価をさらに引き上げる（平均工賃を上げる）③職員配置の見直し④法人全体で開所日数を増やすなど準備しています。 ・平均工賃はあがっていますが、メンバーの手ごたえは様々な理由により働く実感につながっていないように感じています。働くことと得る工賃（手ごたえ）がしっかり結びつくよう、次年度は新しい取り組みを検討しています。 ・就労移行支援事業の見直しでは「みんなで勉強会」を継続しています。具体的な履歴書の書き方や面接の受け方などの勉強会を通して、生活スキルの向上につながっていく、メンバーが興味をもって参加できる取り組みをかんがえていきます。 ・年々障害のある人とご家族の高齢化がすすみ、働くことだけでなく、生活にかかわる支援が重要である事例が増えています。自分が納得できる、手ごたえが持てる、それぞれの歩幅に合わせた働き方を見出せる場所であることが求められています。今生じている事例から前もって手立てが打てないか、教訓とするべきことはなんなのか、引き続いてかんがえていきたいと思っています。
4、次年度以降への課題とそれに対する取り組むべき実践内容
<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの豊かな暮らしと安定した事業所運営をめざすため工賃アップと報酬単価アップ、さらには「一人ひとりにあった働き方」をかんがえる一年にしていきます。 ・メンバーが主体的に楽しみながら答えを見出す「今月のミッション」、働く・生活スキルの向上「みんなで勉強会」、そして新たな取り組み「自分への投資」など、障害のある人が豊かに生きる、働く力につながるような取り組みをおこないます。

事業活動報告 事業所名 デイセンターぽればれ

1、2021年度 事業所方針
<p><基本方針> ○安心感と見通しのある毎日を人とのかかわりのなかで</p> <p>1 「市民として生きている」実感を地域や社会、人とのつながりのなかでつくり、一人ひとりの豊かな人生を援助する実践を追求する。</p> <p>2 ありのままの姿に寄り添い、安心して自分を出せる場所、ほっとできる居場所づくりをすすめる。</p> <p>3 「学び」を意識し、共に学び語り合える職員集団を目指す。</p>
2、利用者・職員状況
<p>○利用者状況 2021年3月現在 契約者数：42名・平日利用者…23名（他事業所併用利用者13名） ・土曜日利用者…24名（平日との併用含む）</p> <p>○職員状況 *10月職員1名退職 *12月新規職員1名入職 ・センター長1名 ・主任1名 ・支援員7名（正規職員2名 非正規職員（パート含む）5名） ・看護師1名（火、木/午後）</p>
3、実践内容と成果
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も日々の活動を行ううえでコロナウイルス感染予防が欠かせない1年となった。「できることは何か」を考え、できる感染予防を継続してきた。しかし、2022年3月には、事業所メンバー、職員、家族の間で感染が広がり、約2週間の閉所を余儀なくされる事態がおきた。マスク着用や手洗い、消毒などの感染予防の難しいメンバーもいるなかで、これまでしてきたことについてあらためて振り返り、必要なことを考えたい。またコロナ禍により、長期の自宅待機が続いているメンバー、家族への支援についてはつながりを切らさないということに努めてきたものの、具体的な手立ては打てないままになってしまった。 ・1年の節目となるとりくみとして、前半期には夏まつり、12月にはクリスマス会を行った。準備期間からメンバー自身が主体的にかかわることを意識して当日までの楽しみにつなげ、当日は思い切り楽しんで「やった」「できた」実感を持つことのできるとりくみとなった。ただ、1日通してのとりくみについては、わかりにくさや疲れを見せるメンバーもおり、内容やスケジュールについてはその時々メンバーの状況を把握しながら、組み立てていくことが必要だと思われる。 ・体調面、食事面など、個別に配慮が必要なメンバーが増えている。食事面では厨房職員とも連携し、工夫しながら「食べる」ことの楽しみを提供した。 ・加齢、障害の重度化による身体機能の低下がみられるメンバーにとっても、日々のなかで無理なくいられる居場所として、職員の言葉かけや雰囲気づくりが大切だ。肯定感の持てる言葉かけ、雰囲気づくりに努めたい。
4、次年度以降への課題とそれに対する取り組むべき実践内容
<p>○日中活動…「わかる」「見える」「実感できる」ことを大切にする活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの実態に合わせた活動やとりくみ内容の検討。メンバー自身が「わかって、みえて、実感できる」ことを大切にする <p>○生活健康…空間整理 基本情報の再整備</p> <p>○職員集団…モニタリング、個別支援計画の作成については、集団議論できる場、時間の設定をする 外部研修参加ができていない。見通しをもった研修参加計画を立て、職員の学びを保障していく。</p> <p>○設備備品について…特に車両の老朽化が目立つ。計画的に助成金申請をしながら整備する。</p>